

尚綱学園にある絵画(2)

筆者の家には、二幅の鯉が描かれた掛け軸があります。この絵を描いたのは、高木古泉という人です。古泉は、「鯉の古泉」と言われ、鯉の絵を描いたら日本一と言われた日本画家でした。筆者にとっては、古泉と言えは、大変身近な存在でした。この古泉の鯉の絵が高校資料室に保存状態があまりよくないまま眠っていました。

どうして、古泉の絵が学園にあるのか、高校の歴史を綴っていくうちに分かりました。



幼少期を母の実家がかった菊池市西寺で暮らし、西寺小学校(現菊池小学校)を卒業しました。明治三四(一九〇二)年、熊本県立師範学校を卒業しましたが、在学中から作詞家の犬童球溪と親交がありました。同三八(一九〇五)年、東京上野美術学校(現東京芸術大学)図画科を中退しました。その後、尚綱高等女学校に赴任し、同四四(一九二二)年三月に退職しました。本校での勤務年数は、わずかなものでした。本校時代の古泉は、新しい図案の授業を展開し、教えを受けた生徒の作品が尚綱会誌の表紙に採用されることがありました。東京で暮らすようになつてから、花桜会東京支部同窓会には、亡くなる前年まで欠かさず出席し、時には得意の鯉の色紙などを配布しました。また、昭和十三(一九三八年)の五十周年記念展覧会には、絵画二点を出品し、「寒の鯉静に向きかへにけり」の俳句を投稿しています。

また、古泉の言によれば、この間「負担重過ぎるたる為身体を悪くして上京治療にかり」(尚綱第三九号)とあるように体調が相当悪くなつていました。病氣回復後、奈良中学校(現奈良高校)に二年、再び大正三(一九一四)年四月から同八(一九一九)年八月まで菊池実科高等女学校に勤務しました。それから台湾総督府の女学校二、三年、鹿児島県加世田の県立成淑高等女学校(現加世田高校)に転じて二年、そこで教鞭を執りました。それから、中国の旅順、遼陽、奉天、四平街など満州の地で絵の修業しながら旅をしました。そして、帰国後、熊本市水前寺公園の鯉を研究しました。また、中国の大連、北京、天津、南京、蘇州、杭州、上海の各地で展覧会を開きました。その後、熊本市六間町に画室を開いて、鯉の絵を描き、名古屋、東京に進出しました。福田平八郎、堅山南風に師事し、昭和二(一九二七)年、第十四回日本美術院(院展)に「遊鯉」で初入選しました。その後、明朗美術連盟展に出品しています。尚綱第三九号によれば、「院展に入選して五十歳にして初めて画壇の第一線に立ち若い人たちのしごをけずり茲に十年已に六十歳のチヂヤと相成白髪の人からそろそろ己のすきな絵をかき半分百姓でもして芋大根の生活でもしたいと考えており候」と花桜会に便りを送っています。

この便りには、水中遊鯉の墨絵が描いてあったそうです。大正十二(一九一七)年、画業に専念し、鯉の絵を専門に描き、「鯉の古泉」として有名になりました。日光を訪れた際、東照宮貴賓室の床の間に自分の絵が架設されていたことに感銘を覚えたこともあったようです。高校については、行幸記念講堂を永遠に飾るため、同窓会の懇願で二幅の鯉の絵を寄贈しました。また、お世話になつた故内藤儀十郎校長に捧げ、何かの時の御用に役立つようにと、揚柳観音像絵を寄贈しています。現在、この絵は二点とも花桜会で大切に保管されています。

昭和三八(一九六三)年、四月十五日、東京で死去しました。享年八五歳でした。この写真は、嘗て高校校長室に架設されていた鯉の絵です。現在資料室で保管しています。

(注)犬童球溪(本名信雄、明治十二(一八七九)年、人吉市に生まれる。県立熊本師範学校三三(一九〇五年)東京美術学校(現東京芸術大学)卒業、新澤高等女学校現新潟中央高校で「寒の鯉」二幅の展覧会を制作する。昭和十八(一九四三)年没、六十五。六間町(現在の南井町)東園町にあつた。院展(日本美術院主催の展覧会、明治三三(一九〇八年)創立、大正三三(一九二四年)再開。明朗美術連盟(川口春波、落合順風らが結成する。自由で七ツツな芸術)を目指す。福田平八郎(大分県出身、東京工芸館卒業、美術院会員、京都府教育委員、文化功労者、文化勲章受章。昭和三八(一九六三)年没、八十五。堅山南風(熊本県出身、横山大観の指導を受け、最高美術院同人となる。花鳥、魚類の描技に長じ、「目を見守る」を称する。芸術院会員、日本美術院常務理事。文化勲章受章。昭和五五(一九八〇)年没、九三歳。

捨てたら得をする(エッセイ)

自動車や高級な家具、調度品を買い揃え、洋服や食べものが豊富である状態を幸せであることだと考える人もいるだろう。反対に「捨てたら得をする」失うことや他に与えることが自分の幸せにつながるということについて考えたことがありますか。他に与えるとお金や物は減っていきます。部品がなくなると機械やロボットは動かなくなりません。しかし人間には「与えたら徳を得る」捨てたら得をする」という素晴らしい徳性、喜びがある。

清々しい挨拶、愛情、親切、やさしさ、ボランティアの精神などがそれです。「与えるは受けるよりも幸いなり」「挨拶人間に不幸なし」「情けは人のためならず」という諺もある通りである。

この世の中は単純な法則で動いていきます。生きるとは取り替えて「こと」と思ふ。何かを得るためには何かを失わなければならない。言い換えれば人の幸せを願えば人からも幸せを願ってもらえるということ

私たちが使っている石鹸、消しゴム、リソクは他のために自らを溶かし磨り減らして自分を無くしてしまうことによつて己の働き、役割を全うしているのです。与えることや捨てることに喜びを見出し人の悲しみや痛みが分かり木や花や虫にまで深い情けを注ぐことができるようになった時人間ははじめて人間らしくなると言われています。

心豊かな人間になるということはそんな濃やかな心遣いを生活の中で実践行動として身につけていく努力をすることである。やさしさと言うものは人から教えてもらうものではなく自分が受けたマイナスを我慢することで身につく。目に見える豊かさだけが本当の豊かさではない。形や重さがなく手で触れることができない、目に見えないものの中に大切なものが数多く存在することを知っている人でありたい。

尚綱中学・高等学校長 川上清司

皆様のオリジナルエッセイの投稿を募集しています

オリジナルエッセイであれば、特にテーマや特定のジャンルまた、応募資格も問いません。本文800字前後にてお願いいたします。(随時募集)

応募の際には必ず氏名、住所、電話番号を明記してください。作品は本誌上への掲載をもつて発表と換えていただきます。

●作品の宛先・お問い合わせ

尚綱学園事務局 広報室宛 〒862-8678 熊本県熊本市九品寺2丁目6番78号
メールでの応募も受け付けております (メールアドレス) kohou@shokei-gakuen.ac.jp

本年六月二十六日の「はなしのぶコンサート」に
来場された長崎県の林田様より
お便りをいただきました。

前略 先日の「はなしのぶ」コンサートを聴かせて頂きました。このコンサートのことを初めてラジオ放送で知りまして、急ぎ「休暇村」へ宿泊を申込み出かけたわけですが、演奏の素晴らしいは勿論のこと、それよりも私共が感動しましたのは高校生の皆さんの様子でした。本当に「高校生らしい高校生」に巡り会えたのは久しぶりのこと、その感動をお伝えしたくペンをとりました。ありがとうございます。貴学園の教育方針に敬意を抱くものでもあります。来年の「コンサート」で又、生徒さんの姿を目にしながらの演奏を聴くことを今から楽しみにしています。末筆になりましたが益々のご発展を祈り上げる次第でございます。

